

全国学力・学習状況調査結果

■こども育成課学校教育係 【☎028(677)1414】

今年度の全国学力・学習状況調査の集計がまとまりました。
 調査は平成25年4月24日に、小学6年生と中学3年生を対象に、国語、算数・数学の2教科で実施されました。今年度は4年ぶりに、対象学年全員に対してきめ細かい調査が行われることになり、町内すべての小・中学校で実施しました。
 今年度の結果は7月27日に文部科学省から発表されましたが、本調査の結果は「あくまで学力の一部であり、個々の学校名を明らかにした公表は行わないこと」という文部科学省や県教育委員会の公表に関する通知、指針などを参考にしながら、芳賀地区広域行政事務組合教育委員会教育長会議の統一見解（各市町教育委員会の文言による公表）に基づいて、お知らせします。

●小学6年生の平均正答率

教科・分野	国語A	国語B	算数A	算数B
全国平均（公立）	62.7	49.4	77.2	58.4
県平均（公立）	61.1	47.9	76.8	56.3
芳賀町平均（児童数144）	全国平均を上回っており、県平均を良好に上回っている	全国平均を上回っており、県平均を良好に上回っている	全国及び県平均を上回っている	全国平均を上回っており、県平均を良好に上回っている

●中学3年生の平均正答率

教科・分野	国語A	国語B	数学A	数学B
全国平均（公立）	76.4	67.4	63.7	41.5
県平均（公立）	77.2	68.0	63.8	41.1
芳賀町平均（生徒数144）	全国平均を良好に上回っており、県平均を上回っている	全国平均及び県平均を良好に上回っている	全国及び県平均を上回っている	全国及び県平均を上回っている

A：基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかを見る問題
 B：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題

■調査の結果から
 本年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、芳賀町の子どもたちの成績は、小・中学校ともに全領域で全国・県の平均正答率を上回りました。特に、国語で極めて良好な結果が出ました。また、中学3年生では、3年前の小学6年生の結果と比較して大幅な伸びを示しており、

全国平均を下回っていた国語Bの正答率が大幅に改善しました。一昨年度まではB問題に課題が見られたため、学力アップ推進会議で検討し、読解力の向上を図ってきた結果、昨年度は全領域で良好な結果が出ました。そこで昨年度、さらに向上を図るため、若干の課題が見られたA問題の向上策について学力

アップ推進会議で再検討し、活用だけではなく習得にもバランスよく力を入れるとともに、授業アイデア例を活用することを全小・中学校共通の課題とし、各領域ごとの具体的な取り組みを示して取り組んできました。今年度の結果はその成果であると考えています。

■各学校の取り組み

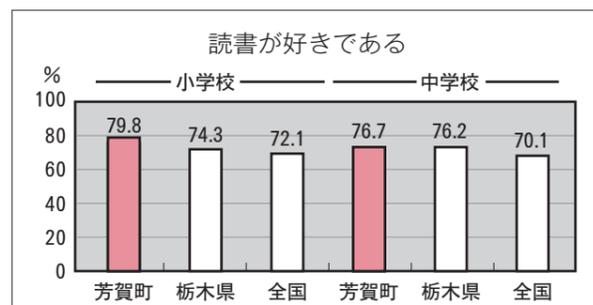
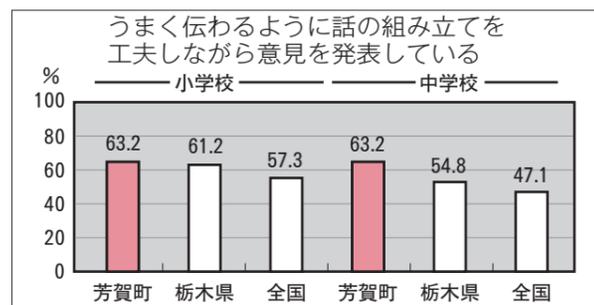
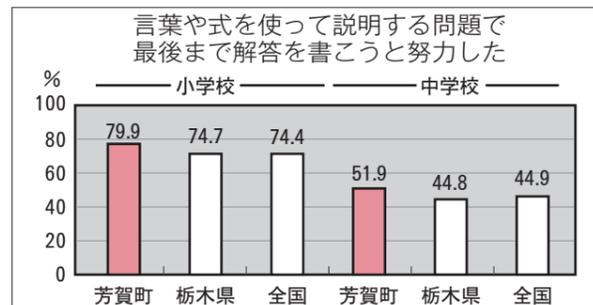
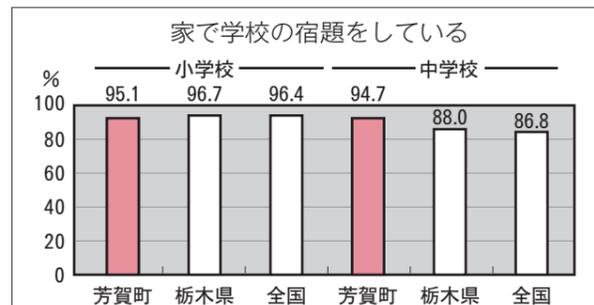
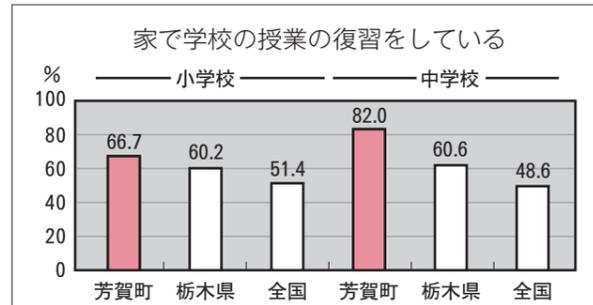
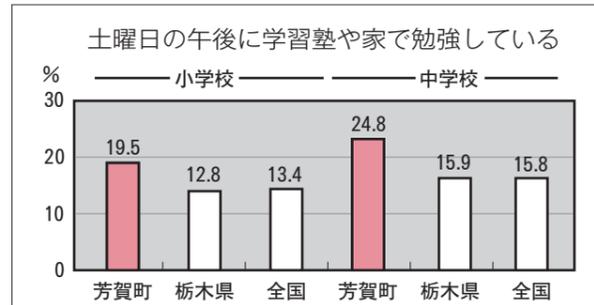
各学校では、先生方が実際に問題を解くとともに、自校の課題を分析し、対応策を考え、正答率の低い問題を中心に授業の中で補充学習を行います。また、昨年度から次のような取り組みをしています。

- ◇語彙力をつけるとともに、敬語を含め正しい日本語の言葉遣いをさせる。
- ◇具体例を入れて、わかりやすく言葉で説明したり記述したりする学習活動を取り入れる。
- ◇家庭学習での日記や音読を継続する。
- ◇四則計算の基礎・基本を定着させるためのドリルを行う。
- ◇思考過程を説明させたり書かせたりする学習を行う。

■児童・生徒質問紙から

子どもたちの学力向上を考えると、テストの成績だけでなく、学習意欲や学習環境、生活習慣の状況を把握することが大切です。そのため、学力調査とともに、「児童・生徒質問紙」により生活習慣や学習環境などについての調査がなされました。こうした背景の部分は目立ちませんが、学力を向上させるためにはとても重要な要素です。

その集計結果を見ると、芳賀町の小・中学生は、全国・県と比較し、多くの項目で意欲的で望ましい生活を送っていることがわかりました。学習に関するものの一部を紹介します。



■今後について

芳賀町教育委員会では、今後とも学習指導助手や図書司書助手の配置を継続し、個別・小集団指導や読書指導を充実させるなど、きめの細かい指導を行っていきます。

さらに学力と学習意欲・学習環境・生活習慣の関係についても学力アップ推進会議で分析し、より効果的な学習指導法のあり方を追及していきたいと考えています。そして、子どもたちが将来に向かって力強く生きていく上で必ず必要となる、確かな学力を身につけさせてあげられるよう、学校・家庭・教育委員会が連携して支援していきます。

